

自分スタイルの確立！ 通信制

可能性への挑戦！ 全日制

2025.06.26

未来の先生、奮闘記—笑いと涙の3週間

教育実習で知った“本当の教育”と、自分自身の成長ストーリー

未知への挑戦と実践の喜び：藤崎さん、3週間の教育実習を語る

～名前を呼ぶ一言が生む信頼、全力チャレンジの大切さ～

1. 実習を終えて - “想像以上の忙しさ”に圧倒

「とても疲れました」と率直に振り返る藤崎さん。授業準備だけでなく、担任業務やクラス運営など、多岐にわたる仕事量に驚かされたと言います。飯島先生のサポートを受けながら教壇に立つ日々は、「想像していた以上に大変でしたが、一つひとつが学びでした」と、その苦勞と充実を語りました。

2. 印象に残った瞬間 - 名前を呼ぶだけで生まれる絆

体育の授業中、初めて生徒の名前を呼んだ瞬間に得た笑顔が、藤崎さんの心に強く残りました。「名前を覚えて呼ぶと、生徒が『先生、覚えてくれたんだ!』と反応してくれて、その笑顔に救われました」教室を行き交う挨拶の中でも、名前呼びは生徒とのコミュニケーションを深める鍵となり、教職の醍醐味を実感したと言います。

3. 教員志望としての“変化” - モチベーションはさらに高く

実習前後で最も大きく変わったのは、教員になりたいという思いの強さ。「運動が好きな自分にとって、生徒とともに学び合える環境は最高です。苦しいこともあります。達成感があるこの仕事が楽しくて仕方ありません」と、未来の教壇を目指す胸の内を明かしました。

4. これからの学生生活 - 仲間とともに高め合う準備期間

残り9ヶ月の大学生活には、まず来年4月の教員採用試験があります。「仲間と一緒に勉強しつつ、実習で得た経験を授業やディスカッションで共有したい」と、教職課程の講義や仲間との交流を通じて、更なる成長を図る意気込みを語りました。

5. 在校生へのメッセージ - 全力でチャレンジし、失敗から学ぶ

最後に在校生へ一言：「何事にも全力で取り組んでほしい。失敗を恐れずチャレンジすることで、自分を成長させられます。頑張る姿は周りを励まし、皆で支え合う力になります。」

失敗と達成を繰り返した3週間の実習が、藤崎さんの教員像をより鮮明にしたようです。

教壇に立つ日まで、自らを磨き続ける彼の挑戦は続きます。



生徒の笑顔が原動力に：篠塚さん、3週間の教育実習を振り返る

～大学での学びと現場のギャップを越えて、教職への熱意を新たに～

1. 実習を終えて——想像以上の大変さ、そして喜び

篠塚さんは、「大学で学んだ理論と、実際の教室で教壇に立つ経験との違いを痛感しました」と語ります。授業準備の大変さや、生徒とのやりとりの難しさに直面しながらも、「生徒たちが『先生、頑張って!』と笑顔で応援してくれたおかげで乗り切れました」と明るく振り返りました。

2. 一番の思い出——学年レクリエーションで育んだ一体感

「3週間で最も印象に残っているのが、学年レクリエーションです」と篠塚さん。生徒たちと一緒にスポーツに興じ、汗を流すうちに自然と打ち解けられたといいます。ここで得た一体感が、「教師としての自信にもつながりました」と笑顔を見せました。

3. 大学での学びとのギャップ——ホームルーム運営の難しさ

大学では学ぶ機会の少ない「ホームルーム運営」の現実にも驚かされたそうです。「想定していた生徒像とはまったく違い、個々の気持ちに向き合う難しさを痛感しました」と篠塚さん。教壇に立つだけでなく、生徒の生活面まで気を配る必要性を実感したことが、今後の大きな学びとなったようです。

4. 今後の抱負——教員採用試験に向けた決意

実習終了後すぐに控える教員採用試験について、「たとえ不合格でも教職を諦めるつもりはありません」と力強く宣言。残りの学生生活でしっかり準備し、一日も早く現場で教壇に立つことを目指す決意を語りました。

5. 理想の先生像——“親しみやすさ”と“生徒目線”

篠塚さんが考える理想の先生は、「生徒の立場になって考えられる、親しみやすい存在」です。自身もそんな先生に支えられて成長した経験があり、同じように、次世代の生徒たちの心に寄り添える教師になりたいと語ります。

6. 生徒へのメッセージ——高校生活を存分に楽しんで

最後に在校生へ一言、「高校時代はあっという間です。悩みやつらいこともあると思いますが、たくさん楽しんで、充実した毎日を過ごしてください。」笑顔あふれる3週間を経て、篠塚さんの教職への熱意は一層深まりました。これから教壇に立つ日まで、さらなる成長を遂げてくれることでしょう。

